

# 図書館 だより

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866  
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672  
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580  
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111  
 内線 303

## 閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日  
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日  
 七城公民館図書室 日曜日・祝日  
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

## 司書のつぶやき

6月は「あじさい忌」です。  
 さて、どなたが好きな花でしょう  
 うか? コスモス



## 新着・お薦め図書

### 泗水図書館

仮面同窓会 粟井脩介 著  
 豆の上で眠る 湊かなえ 著  
 ただ一人の幻影 森村誠一 著  
 直木賞受賞エッセイ集成 文藝春秋 編  
 右?左?のふしぎ ヘンリ・ブルンナー 著  
 70歳を過ぎた親がひとりになったら 河合千恵子 監修  
 こどもたちへ まどみちお 文  
 くま!くま!くまだらけ モーリス・センダック 絵

### 中央公民館

オカリナ入門ゼミ 橋本愛子 著  
 加齢なる日々 小川有里 著  
 洞くつの世界大探検 庫本 正 著  
 遺産 笹本稜平 著  
 黙示録 池上永一 著  
 ホップ、ステップ!卓球部 横沢 彰 作  
 まちにはいろんなかおがいて 佐々木マキ 文

### 七城公民館図書室

軍師官兵衛 二 前川洋一 作  
 海うそ 梨木香歩 著  
 峠道 鷹の見た風景 上田秀人 著  
 お守り 幸せ手帖 瀬戸内寂聴 著

### 旭志公民館図書室

高校サッカー心を揺さぶる11の物語 安藤隆人 監修  
 丸林さんちのはじめての家具づくりレシピ 丸林さんち 著  
 よるのとしょかん カズノ・コハラ 作  
 ごあいさつなあに はたこうしろう 作

## 泗水図書館の開館時間を延長します!

試行期間 6月6日(金)~11月28日(金)

毎週金曜日

延長時間 午後6時~8時(2時間延長)

利用者のニーズを把握するため、開館時間を試行延長することにしました。どうぞご利用ください。  
 なお、月末休館日に該当した場合は実施しません。

☎生涯学習課 ☎0968(25)7232

☎泗水図書館 ☎0968(38)6866



## 耳より情報

### お父さんありがとう!!

6月15日(日)は、父の日です。父の日に合わせて「父」をキーワードに本を集めました。

お父さんを主役とした絵本など、さまざまな本があります。ぜひお父さんと一緒に図書館(室)に来てください♪



### ☆リサイクル本を配布します☆

とき 7月5日(土) 午後1時~(無くなり次第終了)

ところ 菊池市文化会館小ホール入り口

7月5日(土)開催の社会を明るくする運動菊池市集会、図書館(室)で使用できなくなった本や雑誌のバックナンバーをリサイクル本として無料配布します。

※本を入れる袋やバッグはお持ちください。  
 ※当日は中央公民館駐車場の混雑が予想されます。ご迷惑をおかけしますが予めご了承ください。

### 万句の里俳句会 4月句会

古城社は鶯の声たえまなく 野中 公枝

こんなにも一夜の雨の春落葉 松永 久子

城跡に残る礎石や春の風 田中ひさ子

猫の仔の膝に乗りきて軽きこと 梅田 昭子

パンジーの笑みにも会釈したき朝 光本とよいち

### せせらぎ俳句会 4月例会

牡丹散り我百歳の誕生日 村山 数恵

花後風吹くたびに化けて行く 藤本アツ子

もう誰も振り向かぬ葉桜の道 五丁 義昭

春爛漫手づくり弁当色添えし 寺本 和子

藤棚に少年夢を置きしまま 藤本 邦治

### 旭志文芸教室俳句の会 4月詠草

孫の句が賞貰い来て春の宵 中尾ヨシコ

天神の御加護の里や梅古木 芹川 蓉子

身二つになりたる牛や花日和 水谷 ミネ

老いし身の足裏に優し草萌ゆる 芹川のり子

### 肥後狂句桜会 4月例会

良か上司 陰では褒めてやりよらす 辻 弘喜

もうすぐ 夢にまで見たななつ星 藤野 清子

もうすぐ 東京五輪まじや死ぬん 光堀 善教

もうすぐ 生まれる迄は落ち着かん 上村 ○子

大過ぎる 二回に分けた交際費 小川 繁美

### 肥後狂句水笑会 4月例会

右も左も あれそれこれで通じよる 小崎 洋美

腕まくり 彼の腕に惚れ直し 宮上 美由

腕まくり 止めたがよかる皺ばかり 平井 江彩

こらいかん 買い物したがか財布 柏原 乗仏

日記帳 三日坊主にゃならだった 中島 五女

### 七城短歌会 4月詠草

梅林を抜くれば石段続くなり娘の手を頼り登る大阪城 緒方 寛子

幼な日の三人我らが添い寝し夜母逝き給う花時さなか 村上 幾雄

テールに白き小花の活けありぬ可憐さあまり名をば問いかく 岩崎 照代

日溜りの縁に色紙折りている妻真剣のまなざし見たり 嶋田 晴美

起きしなに睦刈る我に遠く立つ孫が朝餉を告ぐる呼び声 緒方 正俊

### 「里」短歌会 4月詠草

澄みわたる鶯の声を凝らし耳をすまして暫し聴き入る 梶原 美智代

雨音は激しくなりぬ目覚むれば桜散る音重ねて聴こゆ 江頭 桂子

「会いたい?」と親しき友の名を言えば涙に潤む夫の眼 林 淑子

歩み止め蘇芳の花の真盛るを購ひくれし母の頭ちくる 川口 敦子

藤もよし卯の花もよし牡丹よし庭の辺に満つ初夏の花 松本 和子

### 菊池短歌会 5月詠草

雑誌とて粗末にするな父よりのいましめ思ひ頁をめぐる 山代 静子

陽だまりに蒔きし種の芽二葉三葉プランターの中不整列なり 余語やす子

山桜吹雪きて散れば唐突の上昇気流 安藤 則子

乗りて高舞ふ 梨木香歩 著

右端の畑の草取り左へと数日経てば また春の草 林 まつ子



雨あとの栗の若葉の漲りを見上げやさしき風に会ひたり 岩木 妙子

# 文芸 きくち